

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4090900012 | | |
| 法人名 | 株式会社西日本介護サービス | | |
| 事業所名 | グループホームウイズライフ奈良屋 | | |
| 所在地 | 福岡県福岡市博多区奈良屋町8-19 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年7月6日 | 評価結果確定日 | 平成26年12月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|------------------|---|
| 評価機関名 | 株式会社アール・ツーエス | | |
| 所在地 | 福岡県福岡市博多区元町1-6-16 | TEL:092-589-5680 | HP: http://www.r2s.co.jp |
| 訪問調査日 | 平成26年11月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

・地域の一員として山笠の炊き出しや公民館行事に積極的に参加している。また、ボランティアや実習生の受け入れを通して地域に開かれたホームを目指している。
 ・ご利用者が安心して暮らせるよう、医療連携室と連携を図り健康管理・栄養管理・機能訓練に力を入れている。
 ・併設事業所であるデイサービスのリハビリやレクリエーションに参加したり、大浴場を利用したりする等柔軟な対応に努めている。
 ・ウイズのグループホーム(西新・別府・奈良屋)3事業所で合同のアクティビティを企画・実行し協力体制を充実させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ウイズライフ奈良屋」は大博通りから一本入り、活気にあふれた町並みの一角にある、2ユニットグループホームである。小学校や幼稚園も近く、シーズンにはどんたくや山笠も間近に見ることが出来る。ビルを改装した造りで、1Fには系列のデイサービスがあり、2、3Fに1ユニットずつグループホームが位置している。地域とも友好な関係を築き、公民館行事の参加や、山笠の炊き出しの手伝いなども毎年行っており、地域ボランティアによるフルート演奏などの慰問も受けている。、母体法人は各所で福祉事業を展開しており、系列の訪問看護と連携した健康管理や作業療法士から指導を受けて機能訓練も行っている。デイサービスの機械を利用して訓練したり、大浴場を使うことも出来る。系列のスクールを活用したスキルアップや託児所を使つての労働環境整備などもあり、職員のサービス実践向上に10項目のサービス基準「帰れま10」を活用したりとユニークな取組を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | | |
|-------------------|-----|---|---|---|---|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・管理者は職員の入社時に理念の説明を行い、研修やミーティング時に全員で理念の唱和をしている。 ・毎週(月)に全体朝礼時に唱和。 ・事務所内、職員ステーションに理念を掲示している。 | ミーティングの際に理念を唱和しており、スタッフルームや事務室にも掲示されている。入社時にも「介護の心得10箇条」を配布し、目標と一緒に個人ファイルで管理している。会議や研修の際にも唱和することで企業理念をグループで共有している。理念とともに「5つのワーク」が定められ、職員の日頃のケアへの実践につなげていた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・山笠の炊き出しに職員が毎年参加させて頂いている。 ・毎月、公民館の行事や地域清掃にご利用者・職員参加させて頂いている。 また、ご利用者が近隣の美容室を利用している。 | 毎月、公民館の「はつらつサロン」に入居者と一緒に参加し、サロンで食事や音楽などを楽しんでいる。入居者の関わりから民生委員や社協の訪問もあり、町内会活動でも清掃や消防活動など積極的に参加し、地域総会でも話し合いに加わっている。周年祭もデイサービスと合同で地域や家族も招いて盛大に行い、もちつきは地域にポスティングもして回覧板でも案内し、来訪も多かった。 | 地域との関わりを密接に持っているが、グループホームからの情報発信や、認知症の啓発活動として、キャラバンメイト活動や、介護技術の勉強会を公民館などとも協力して行ってはどうだろうか。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・毎月ウズライフ通信をご利用者と一緒に地域の方々へ配布している。 ・運営推進会議にて勉強会を実施している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・実際の食事を試食して頂き参加者の皆様からご意見やアドバイスを頂く。 ・助言や提案を頂いた際は、全職員で改善に取り組み迅速な対応を行っている。 ・会議時 防災訓練を実施予定。 | 2ヶ月毎に、運営推進会議と勉強会を一緒に行い、市役所、民生委員、地域包括の来訪があり、家族の参加も多い。ホールで開催することで入居者も気軽に参加でき、写真付きの報告で取組をわかりやすく伝えている。系列事業所からの参加もあり、意見や質問も活発で、昼食会を一緒にすることで食事のアドバイスも頂いた。消防署員を呼んで防災に関して話してもらうこともある。会議の案内はレジュメと通信と一緒にして全家族に送付している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・運営推進会議に民生委員・社会福祉協議会の職員を招き連携を深めている。 ・今後、市職員も参加予定。 | 区の保健福祉センターの勉強会に参加しており、不定期開催だが毎回行っている。更新申請も窓口に行き、報告ごとなどもその都度している。疑問点などは社内で解決することも多いが、必要があれば市などへ連絡もしている。今年から市の職員も運営推進会議に参加するようになり、そこでも連携をとっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・リスクマネジメント委員会を設置し、定例ミーティング時に職員間で確認している。 ・玄関はオートロックになっているがご利用者が外出を希望される際は付き添い、外出できる体制を整えている。 | 毎月のミーティングで身体拘束廃止委員から伝達があり、法人全体で組織化している。以前、危険行為のある方に、安全の為の抑制行為があったが、医師や家族と相談の上見直しも行い、今はされていない。玄関はオートロックで職員が管理しており、出られる時には見守りや付き添いで対応している。施設内の行き来は自由で、スピーチロックなども気づいた時お互いに注意しあっている。外部研修の参加や内部での伝達も行っている。 | |

H26自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・内部研修、勉強会を実施している。 ・リスクマネジメント委員会を設置し、定例ミーティング時に職員間で確認している。 | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・外部研修や内部研修、勉強会を実施している。 ・現在、成年後見人活用中である。 | 区が主催する権利擁護に関しての研修に参加したり、新人研修や実践者研修にも参加している。現在成年後見制度を活用している方もおり、入居後、事業所の支援のもと制度活用に至った事もある。職員も基本的な制度の理解をしており、必要な時には母体法人の相談体制もある。説明用に資料やパンフレットも準備されていた。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・事前に見学して頂き相談、説明の場を設けている。 ・事前の面談を実施し、体験入居で様子を伺った上で再度説明しご理解を頂いている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・面会時やサービス担当者会議、運営推進会議でご意見を頂き、改善策を検討している。また、懇親会(年1回)の開催や施設全体の雰囲気や職員の接遇に関するアンケート等を実施。 | 毎月発行の「ふれあい通信」によって写真付きでサービス状況を報告しており、半年に1回アンケートを法人からも集計しており、上がった意見から話し合っただけで食事に関する要望や改善にもつなげた。結果は集計して開示も行っている。個別の意見も面会時や、家族会、懇親会などで伺い、家族の出席率も高く、協力的に運営されている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・管理者は毎日の申し送りに参加し意見交換や提案を聞いている。 ・管理者やリーダーは一般職と個別面談を実施しているので直接意見を聞く機会がある。 | 定例ミーティングが毎月事業所全体であり、全員が参加して現状報告や情報共有を行っている。職員からの意見で行事の提案や、受け持った係、役割の提案などがされている。和やかな雰囲気で見聞がされされており、3ヶ月に1回程度管理者面談もあり、目標を決めて進捗管理もして普段からの相談もし易い。系列他施設の上長との面談も有り、意見を引き出す配慮も工夫されていた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・自己目標を設定しそれに伴う面談や年1回の人事考課を行いキャリアと向上心をもって働けるような体制作り。 ・グループ内でやる気を促す活動を実施。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | ・募集、採用にあたっては制限はなく採用時は1日職場体験して頂きホーム内の様子を把握できるようにしている。 ・職員の特性を生かして先輩職員の指導のもと役割を担っている。毎月の休日希望を取り、働きやすい環境作りに取り組んでいる。 | 外部研修案内もあり、勤務として参加もしており、外部の協力企業実習などでもスキルアップの機会を持っている。キャリアプランも明示されており、資格取得の為に支援制度も、系列のスクールを活用して行われる。職員も得意なことなどを係で受け持つ能力を発揮する機会を持っている。勤務調整や休憩時間の確保、スタッフルームもあり、法人本部の電話カウンセリング制度で労働環境にも配慮されている。法人全体の交流会や懇親会などで職員同士の交流機会も持たれていた。 | |

H26自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | ・外部研修や内部研修に参加し、ご利用者の尊厳について確認している。 ・社内全体でマナーチェックを実施しており、その都度ご指摘頂いた内容については職員へ伝達しその後改善を行っている。 | 市の協議会が行う研修で人権に関して学んでおり、法人内での研修でも、新人研修や実務者研修のカリキュラムの中で人権学習を行っている。倫理や法令遵守に関して取り上げることも多く、全職員が均等に人権に関して学ぶ機会を持っている。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・人事考課にて全職員の現状を把握し、社内全体の定期研修制度を実施している。その他にも事業所内で毎月勉強会を実施し、外部研修にも積極的に参加している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・外部研修で他事業所と交流の機会をもち、ネットワークの構築に努めている。 ・社内で月1回グループホーム課会議を開催し連携を強化している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・入居相談時にご本人と面会を行いご要望を伺っている。体験入居中にご本人の話を聴く機会を設けており、本契約までに信頼関係が少しでも多く構築できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・ご家族と綿密に話をする場を設け、ホームの理念・指針をきちんとお伝えすることで信頼頂けるよう努めている。 ・入居待機者には定期的に電話連絡等行い現状の確認や不安解消に努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・入居相談の際に必要としている支援を見極め、様々なサービスのご提案を行っている。また、ホーム内を見学したりお食事を召し上がって頂くことで安心、納得して頂けるような支援に努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・ご本人の生活歴を把握し、得意なことを活かし支え合いながら喜怒哀楽を共有することで理念に掲げる新しい家族として生活を共にする関係づくりに努めている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・面会時やサービス担当者会議の際に日頃の様子や主治医からの意見も併せ報告している。日頃から情報共有することでご利用者を共に支えていく関係を築いている。 ・年1回の懇親会を実施。 | | |

H26自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・馴染みの人達と関わりを設けている(はつらつサロン・理髪店・時計店・メガネ屋・歯科)関係が途切れないように支援に努めている。 | 近隣の方も多く、行き慣れた美容室に送迎したり、知人のお見舞いに行ったり、個別ケアでの支援を行っている。住み慣れた家を見に行ったり、歩いて行ける距離に顔なじみの商店などがあり挨拶を交わしている。入居時に馴染みの関係を聞いて、関係が疎遠な方には事業所が連れ出したり、年賀状や暑中見舞い発送の支援を行い、友人や知人の来訪などもある。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・日々の生活において関係性を把握し、食事の準備や外出ホームのイベント等を通じてお互いが支え合えるような支援に努めている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・近くに來られた際はいつでもお顔を見せてほしい等お伝えしたり、ご家族から他の方の入居相談の対応を行った。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・日頃の関わりの中でアセスメントをとり、想いや希望を取り入れたケアの実践につながるよう努めている。また、意思疎通が困難な方からはご家族から情報を得ている。 | 入居時のアセスメントを6ヶ月で見直し、主に担当職員が受け持っている。後から分かった情報は随時追記しており、基本情報も半年で見なおしている。日頃の関わりから本人の意向を汲み取っており、「ふれあい通信」の報告によって家族が知らなかった情報などを伝えて、家族にも喜ばれている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・ご本人やご家族に伺いながら情報収集を行い、職員全員が共有の認識として把握に努める。 ・入居後はケアを通して得た情報を記録に残している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・日々の情報を記録に残し、申し送りノートを活用しながら情報の共有に努めている。また、アセスメント内容を元にケアカンファレンスを行っている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・日々の関わりからアセスメントをとり、ケアカンファレンスやサービス担当者会議で介護計画を作成している。 ・ご家族にご意見等を伺い反映するように作成している。 | 職員は担当制で関わり、プランの見直しが3ヶ月、担当者会議も6ヶ月毎に行っており、医師からの意見を照会したり、リハビリに関してOTからのアドバイスをプランに入れ込んだりもしている。日々の変更などもプランに青ペンで書き入れ、わかりやすくしている。モニタリングも毎月行い、「ふれあい通信」で報告もしている。医療カンファレンスを毎月行って、全体での情報共有も進めている。 | 他職種からのアドバイスをもらってプランやアセスメントに活かしているが、変更時の日付や担当者や経緯の記録も行うことで、より詳細な情報管理がなされることに期待したい。 |

H26自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・日々の状況を記録に残し、気づき等申し送り ノートで情報共有に努めている。 ・ケアカンファレンス時に介護計画の見直しを職員間で行っている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・お一人おひとりの状態に応じ、食事形態や入浴時間の調整を行っている。また、併設のデイサービスのリハビリ機器や温泉を利用する等柔軟な対応に努めている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・山笠やはつらつサロンなど地域行事に参加させて頂いている。また、運営推進会議に民生委員や社協の方が参加し連携を強化している。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・ご本人またはご家族の希望によりかかりつけ医が決まっている。 ・協力医による往診で体調変化に迅速に対応できる体制を整えている。 | 希望するかかりつけ医を継続してもらい、提携医の場合は月2回の往診がなされる。通院介助は基本的には家族に依頼するが、必要時には事業所からの支援も行っている。訪問看護との医療連携で、毎週健康管理や医療相談をしており、時には通院同行も行っている。事業所の受診票を医師とやりとりすることで、報告や情報共有に役立てており、家族にも「ふれあい通信」によってお伝えしている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・訪問看護ステーションに日頃の健康観察や状況を報告し助言頂いている。 ・併設のデイサービスの看護師との連携も図っている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院された際は職員間で面会に行き病状の把握を行っている。また、病院内のそれぞれの専門職と早期退院に向けての話し合いを行っている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入居契約時及び介護計画の更新時には終末期の意向を確認している。また、重度化指針に基づいてご家族へ説明、同意を得ている。 | 契約時に意向を確認しており、重度化の際には改めて意向を確認し、今までに看取った事もある。提携医と訪問看護も24時間対応しており、希望があれば看取りにも対応する方針である。対応の際には看取りに関する勉強会も行い、事業所内での情報を共有している。 | |

H26自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・緊急時対応マニュアルを作成し、職員間で確認している。 ・ホーム内で研修を行い、急変時や事故発生時対応を学び実践に活かしている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の火災避難訓練実施と夜間帯を想定した訓練等も実施。他、防災訓練(地震、水害)も実施。 | 基本的に夜間を想定して訓練を行い、年1回は消防署にも立ち会ってもらい訓練している。火災と風水害は別で勉強会も行い、以前運営推進会議に消防署が参加したこともあり、地域の防災訓練に事業所から参加したこともある。防災訓練と運営推進会議を同日に開催する予定もあり、AEDやスプリンクラーなどの防災設備も完備されていた。 | こまめな訓練によって災害対応の意識を高めているが、非常時の地域との協力体制の確保を進めるために、訓練参加の呼びかけや相互協力体制が作られていくことにも期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・個人の尊厳を守り、プライバシーに配慮している。 ・個人情報やプライバシーについての研修を職員は必須で受講している。 | 新入社員向けの研修でプライバシー保護や、言葉かけの接遇研修などを行っている。実務者研修や外部研修でも、マナーやモラルに関して学び、日頃からの取り組みも他部署との相互見学でお互いにチェックしたり、チェック表で客観的に注意しあっている。入居者の写真掲載などに関してはその都度確認を取るようにしている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・日々の生活の中で、ご利用者の声に耳を傾け、意思表示が困難な方には、表情を読み取る等、表現できる環境を整えるよう努めている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・ご希望に沿って、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。 ・外出レクや休息など、時々合わせた対応を心がけている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・毎朝の整容を欠かさず個々の生活習慣に合わせている。男性なら髭剃り、女性なら化粧やおしゃれの支援に努めている。また、自らおしゃれをされない方に対しては、化粧やマニキュアを行い、関心を持てるような支援を行っている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ・材料の下ごしらえを一緒にして頂いたり、食後の皿洗いや台拭きを役割として楽しみながら参加頂いている。食事中もこまめな声かけや音楽などゆっくりとお食事を楽しんで頂ける環境作りを行っている。 | 車いすの方も、椅子に移乗して食事につき、片付けや下ごしらえなども出来る人には手伝ってもらい、おやつ作りなども行っている。メニューや食材管理は業者に委託し、調理は職員や補助スタッフによって行う。大きめのテーブルで入居者も職員も一緒に食事を楽しんでいる。食べたいものなどは外食や出前などで対応し、以前運営推進会議を昼食会として行い、感想を聞くこともあった。 | |

H26自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・栄養士によるバランスのとれた食事メニュー。また、食事係を中心に勉強会も実施し良質な食事提供に努めている。 ・食事量や水分量は個別に把握し提供している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・ご利用者の状態に合わせて、毎食後口腔ケアを実施して清潔に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し清潔に努めている。ニーズに応じて歯科医と連携を図っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・日々の関わりや、排泄表を基に排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら自力での排泄を支援している。トイレでの自然排泄を心がけている。 | 個別の排泄チェック表があり、水分摂取や保清の方法なども含めて細かく管理し、自立した方には後から聞いてチェックしている。基本的にはトイレ排泄を行い、必要であればポータブルトイレも準備している。それぞれのタイミングを把握して声掛けや働きかけを工夫し、状態改善につながった方もいる。職員も気づいた時に提案して話し合い、気付きを細かく業務日誌に落としこむよう意識づけている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・毎日の体操やリハビリでぜん動運動の促しに努めている。 ・排泄状況の把握を行い、必要時に水分提供や食物繊維を提供している。(オリゴ糖・プルーン) | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・個々の体調に合わせて入浴、清拭を組み合わせてながら清潔保持に努めている。また、併設デイサービスの大浴場を利用することで普段とは違う環境で入浴を楽しんでいる。 | 基本的には週3回の入浴で、入浴剤などを使うこともある。1階のデイサービスの大浴場にも希望すれば入ることが出来る。時間帯も特には決めず、朝から夕方までの対応に限らず夜に対応することもある。拒まれても無理強いせず、本人のタイミングで働きかけ、ドライシャンプーや清拭などで臨機応変に支援している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・日中の活動性を向上する事で夜間良眠につながるよう努めている。夜間眠れないご利用者にはホットミルクを提供し安眠につながるサービス提供にも心がけている。個々に合わせて日中の休息も取り入れている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・個人ファイルに薬剤情報を綴り全職員が確認できるようにしている。 ・与薬時は複数の職員で名前、日付、時間の確認を行い、服薬後の空袋で再確認している。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・ご利用者一人ひとりの個性をいかし、食事、掃除、洗濯たみ等の支援を行っている。 ・趣味や特技、日課となっていることを介護計画に挙げ実施できるようにしている。 | | |

H26自己・外部評価表(ウイズライフ奈良屋)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・日頃の散歩や買い物の他、地域行事や誕生日等、普段行けない場所へもご家族や地域の方の協力を得ながら実施している。 ・グループ内他事業所と一緒に毎月の外出レクを企画、実施している。 | デイサービスの車を活用し、外出レクを毎月行い、年1回は大型バスを使つてのバスハイクを系列事業所と合同で行っている。日常的にも買い物でコンビニや朝市に行ったり、近くのお地藏様にお参りしたりしている。家族と一緒に外出レクをしたり、友人が連れ出すこともあり、ここ一年で散歩などの外出機会も増えてきている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・金銭を所持をされている方もいらっしゃるが、基本、立替えて購入されている。 ・金銭を持参していることで安心されているので制限はせず、ご自分が欲しい物を購入して頂いている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・電話を定期的にかける事をケアプランに挙げて実施。日記などで日頃のご様子の記入を支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・テーブルソファの配置はご利用者がゆっくり過ごせる環境作りに努めている。また、温湿度計で適温を調整している。 ・なるべく暗い環境にならないように、日中はカーテンを出来るだけ開け明るい雰囲気。夜間は照明を少し落とし、ゆったりとした雰囲気でご過ごして頂く。 | 浴槽も移乗しやすい造りになっており、2名介助出来るゆとりがある。ホールもかなり広く、ソファやテーブルも各所にあり、リクライニングチェアで休憩したり、それぞれが好きな場所で寛ぐことが出来る。観葉植物なども飾られて温かみのある雰囲気があり、床材はパネルカーペットによって、汚れた時にも交換して清潔を保っている。トイレも3箇所あり、好きな時に利用することが出来る。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・リビング内数か所にソファを設置し、仲の良いご利用者同士で話す等、くつろげる環境作りに努めている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・居室には馴染みの家具やご家族の写真を飾り、居心地の良い空間を提供できるよう努めている。また、お気に入りの物や趣味の道具を置くことで今までと変わらない暮らしの支援に努めている。 | 各居室も広めで、フローリング調の床で、洋風の格子窓もあり洒落た造りである。ベッドは事業所によって備え付けられ、入居者はソファやタンスやテレビなどを持ち込んでいるがスペースには十分な余裕がある。必要があればポータブルトイレも事業所によって準備されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・居室前に表札や写真を飾り、ご自分の部屋だと分かるようにしている。 ・各所に手すりや椅子を設置し、自立した生活ができるようにしている。 | | |